

株式会社メディビック

第5期 事業報告書

2004.1.1 ▶ 2004.12.31

MediBic

メディビックの2004年度ビジネス・ハイライト

インフォマティクス技術の強化

創薬事業への参入

単独経営からグループ経営への
戦略展開

メディビックのビジネス・コンセプト

当社は、遺伝子データ解析技術、*in silico*技術（ITを活用して、新薬研究開発の方向性を見出す技術の総称）及び従来の新薬研究開発技術等を活用して、顧客企業の新薬研究開発の効率化を推進するとともに、当社自らがそれら技術を活用して、新薬開発に参画することを主軸とした事業を展開しています。

■ 基幹としてのコンサルティング事業

遺伝子研究は、ヒトゲノムの解読から生命現象の解明に向けて日々進展しており、公的研究機関及び製薬会社等実業界は、その研究成果を新薬研究開発に取り入れることに積極的ですが、反面、それらに対する投資が新しい知見によって陳腐化するリスクにさらされています。

このような状況の下、当社は、設立初年度よりコンサルティング事業を開始して、顧客ニーズの把握に努めてまいりました。当社の行うコンサルティング事業は、新薬研究開発技術とIT技術という各視点から、新薬研究開発を効率化するソリューションを幅広く提供するものです。

本邦における新薬研究開発では、*in silico*技術の導入が欧米に比して進んでいない一方で、バイオインフォマティクス企業の動向に目をやると、非臨床開発以降の、新薬開

コンサルティング事業

2000年12月期より

発の経験がなければIT化が難しい領域に対応できる企業は稀である。当社はコンサルティング事業を通じて、このような認識に至りました。

■ コンサルティング事業からインフォマティクス事業へ

当社では、以上のような認識に基づき、2002年12月期よりインフォマティクス事業を開始しました。これは、非臨床開発以降を主たるビジネス・ターゲットとした情報処理システムの販売や、遺伝子情報と新薬候補化合物等を投与したときの生体内反応の関係の解析を行うものでした。

2004年12月期には、実際の新薬研究開発の動向をより反映させて、インフォマティクス事業で提供する解析技術及び情報処理システムの幅を広げました。

具体的には、解析技術については、遺伝子解析のみならずプロテオーム解析にも対応できるようになりました。また、情報処理システムについては、基礎研究段階におけるアプリケーションも加えることで、非臨床開発以降だけでなく、新薬研究開発の初期段階からトータルで化合物開発支援が行えるように、新たに開発した情報処理システムも含めてモジュール化しました。

■ 創薬事業のスタート

2004年12月期から参入した創薬事業は、コンサルティング事業、インフォマティクス事業、と段階的に参入してきた事業との相乗効果を発揮して、当社のビジネス・モデルを完成させるものです。

当社が行う創薬事業は、コンサルティング事業を通じて有望な新薬候補化合物等を探し出し、その新薬候補化合物等の付加価値を、インフォマティクス技術や当社の新薬開発ノウハウを用いて高めることによって、当社がその新薬候補化合物等に関する知的財産や諸権利の一部を獲得するものです。

当社では、コンサルティング事業で培ってきたノウハウや、インフォマティクス事業で培ってきた技術を融合させ、当社自らが新薬の研究開発を行うことによって、人々が求めている、より良い薬を国内開発市場に導入するとともに、医療技術の発展に貢献する方針であります。

インフォマティクス事業

創薬事業

2002年12月期より

2004年12月期より

インフォマティクス技術を強化しました

ファーマコゲノミクスから化合物開発のトータル・サポートへ

■ファーマコゲノミクスに基づく技術開発

ファーマコゲノミクス(Pharmacogenomics)とは、ゲノム情報を用いて薬に対する生体の様々な反応を解析・評価する研究領域です。Pharmacology(薬理学)とGenomics(ゲノム学)の造語で、「薬理ゲノム学」と訳されています。当社が2002年12月期の、インフォマティクス事業参入当初から主軸としているのは、このファーマコゲノミクスに基づく遺伝子データ解析や、その解析を行いうる情報処理システム開発です。

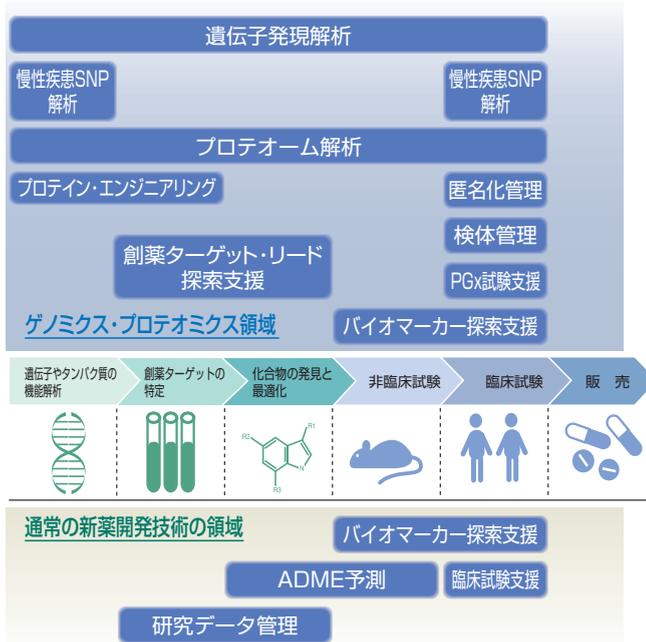
厚生労働省は、ファーマコゲノミクスを利用した臨床試験等が適切に行えるよう、指針を作成する計画をしめています。2004年6月には、その準備のための、パブリックコメントを募集しました。

これは、当社がインフォマティクス事業においてもともと想定していた技術開発と方向性を同じくするものであり、産業界の対応によっては、当社が対象とするマーケットが急拡大するものと思われます。

■化合物開発をトータルで支援できるインフォマティクス技術へ

しかし、前述のパブリックコメントの募集の概要の中でも指摘されているように、遺伝子と薬の関係が未だ十分に解明されていない領域も存在します。また一方、遺伝子研究の進展に伴い、遺伝子情報を最大限に活用するべく、ゲノムやプロテオミクス情報だけでなく、他のバイオマーカー(生体の特性や変化の指標)を新薬研究開発に活用する、新しいアプローチも生まれてきています。

メディックのインフォマティクス技術



そのため当社では、疾患のもととなっている遺伝子を特定するという基礎研究段階にも対応できるよう、また、前述の新しいアプローチを新薬研究開発に活用できるよう、インフォマティクス事業で提供するデータ解析技術や情報処理システムの幅を広げ、整備し、総合的な技術サービスへと拡大を図りました。結果、化合物開発という広い視点で、新薬研究開

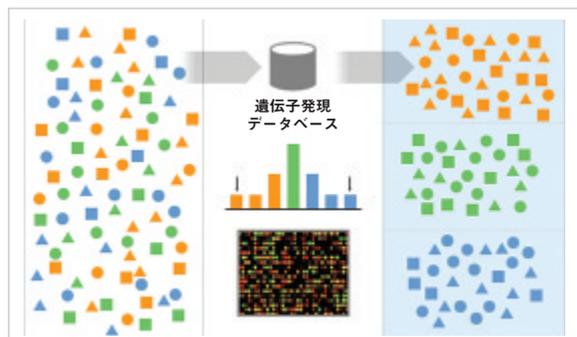
発の各プロセスを効率化するソリューションを提供できるようになりました。

■ インフォマティクス技術(1) 遺伝子発現解析

遺伝子の塩基配列は先天的に決まりますが、遺伝子発現(どの遺伝子がいつ、どこで、どれだけ働くか)は、食事、ストレス、生活環境、化学物質等の様々な外的要因や内的要因により変化します。ヒトは遺伝子発現が非常に厳密に調節されているおかげで、健康な生活を維持できます。

遺伝子発現解析とは、このように、ヒトの体内で発現している遺伝子やその変化の様子について、特定の目的に従って網羅的に把握し、解析する手法です。個別の遺伝子解析に加えて、遺伝子グループの発現変化を解析する手法が生まれています。

遺伝子発現解析の発達により、疾患のもととなっている遺伝子が探し出され、新薬開発に役立っています。また遺伝子の発現パターンによって疾患を分類すること、それら



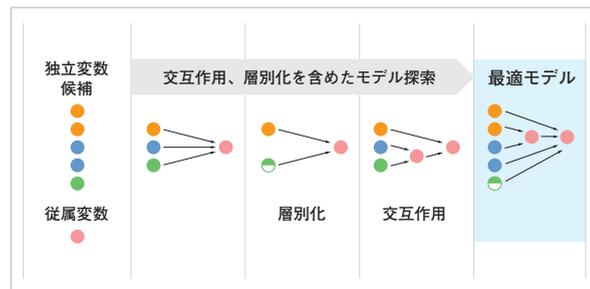
の分類に基づいて有効な治療を選択すること、さらには、疾患の発症や予後を予測することが期待されています。

■ インフォマティクス技術(2) 慢性疾患SNP解析

慢性疾患は、生活習慣病に代表されるように、発病に多くの原因が関与すると言われています。

慢性疾患SNP解析とは、その発病の原因となる遺伝的因子や環境因子の推定や選定を行い、疾患に影響を及ぼす因子を抜き出して、疾患との関連性を示すモデル(因果モデル)を導き出すものです。

従来、慢性疾患SNP解析には、考慮すべき要因の種類と数の組み合わせが膨大であるため、甚大な労力を要していましたが、因果モデルの多点ローカル探索及び医学的背景に基づいた候補遺伝子の絞込み等、当社独自の手法を導入することにより、それら労力を大幅に削減しています。



創薬事業に参入しました

ファーマシューティカルなビジネスモデルの完成

■テラーメイド創薬®とは

テラーメイド医療とは、遺伝子研究の進展に伴い、欧米を中心に盛んになってきた、個人の体質や病状の違いによって最適な薬を投与するという、医療に対する考え方です。近年の研究成果によって、遺伝子情報だけでなく、プロテオミクス情報や他のバイオマーカーの変化を解析することによって、薬の効き方や副作用の発症を推測できることがわかってきています。

ゲノム創薬とは、遺伝子と疾患、さらには遺伝子と薬との関係の解析を通じて、論理的・効率的なアプローチで創薬を行う手法です。ゲノム創薬には、様々な視点からのアプローチがありますが、当社が事業の主軸にしているのは、ファ-

マコゲノミクスに基づくゲノム創薬、すなわち、臨床試験等開発後期の新薬候補化合物等を対象として、薬の効くヒト、効かないヒト、副作用の出るヒトを、個人の遺伝子情報に基づき選別する手法です。

「テラーメイド創薬」は、当社が商標登録している造語です。遺伝子情報をはじめとして、薬の効き方や副作用の発症に影響を与える因子を、インフォマティクス技術等を用いて当社が解析し、個人に適した医療の実現を目指すものです。

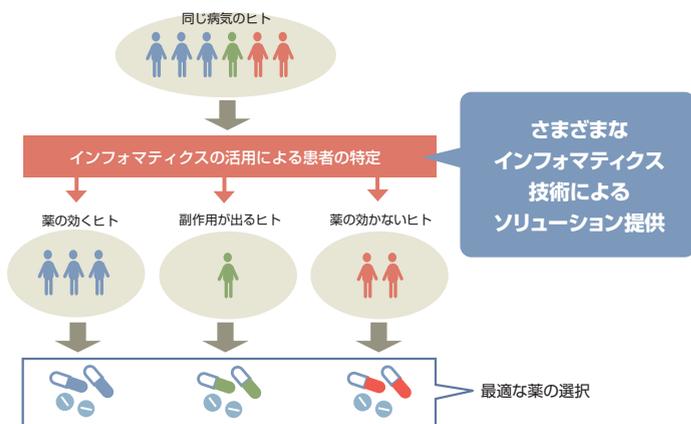
■創薬事業の開発対象

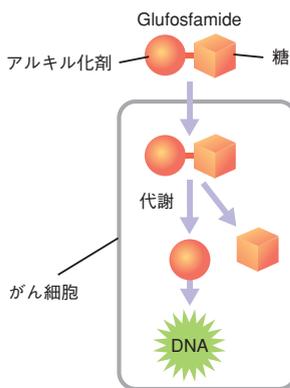
当社が行う創薬事業とは、コンサルティング事業を通じて有望な新薬候補化合物等を探し出し、その新薬候補化合物等の付加価値を、インフォマティクス技術や当社の新薬開発ノウハウを用いて高めることによって、当社がその新薬候補化合物等に関する知的財産や諸権利の一部を獲得するものです。

具体的に、創薬事業の開発対象となるのは、ゲノム創薬、先端医療及び通常の新薬候補化合物の臨床開発のうち、前述のテラーメイド創薬の考え方にに基づき開発を進めることのできる新薬候補化合物等です。

■創薬プロジェクト(1) 海外企業保有の新薬候補化合物 アジアにおける抗がん剤の共同開発をThreshold社と契約

2004年12月、当社は米国バイオベンチャーThreshold Pharmaceuticals, Inc.との間で、日本を含めたアジア地域において抗がん剤Glufosfamideの開発、販売を行うための共同開発





Glufosfamideはがん細胞に取り込まれると糖ははずれ、その細胞の増殖を抑制する。

契約を結びました。2005年度以降の開発開始となります。

がん組織には、低酸素状態にあるがん細胞が集中している領域があり、そこでは細胞増殖を維持するために、正常な細胞よりも多くの糖を取り込もうとします。

Glufosfamideは、この性質を利用してがん細胞内に

移行し、増殖を抑制するものです。すでに臨床データにより、有効性を示唆する情報が得られています。

■創薬プロジェクト(2)先端医療分野

免疫細胞治療法の新技术をリンフォテックと共同開発

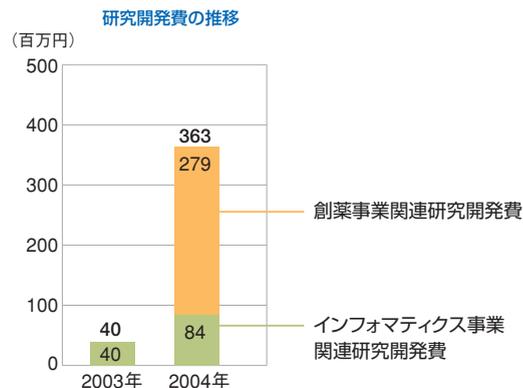
2004年3月、当社は株式会社リンフォテックとの間で、免疫系細胞治療(免疫に関わっている細胞を活性化させることで自己免疫機能を正常化する治療法)における新技术の共同開発について合意しました。

リンフォテックは、がん、ウイルス感染症の治療、移植医療等における免疫系細胞治療技術の応用を主体とした研究開発を行っています。当社では、この共同開発において遺伝子発現データ解析を主体とした技術を提供することによって、細胞治療分野における医療の有効性の向上や副作用発症の最小化を目指す方針です。

■経営資源の投入による研究開発費の推移

このような創業事業の開始、及び、前述のインフォマティクス技術の強化に伴い、2004年度における当社の研究開発費は急増しました。2003年度における研究開発費実績が40百万円であったのに対し、2004年度における研究開発費実績は363百万円(807%増)となりました。内訳は、インフォマティクス事業関連の研究開発費が84百万円、創業事業関連の研究開発費が279百万円です。

当社では2005年度もこのような研究開発活動を継続する方針であり、2004年度と同程度の研究開発費予算を見込んでおります。インフォマティクス事業に関する研究開発費は、2004年度で開発が一段落したため減少が見込まれますが、創業事業に関する研究開発費は、既存プロジェクトの進展等により増額を予定しております。



単独経営からグループ経営に戦略展開しました

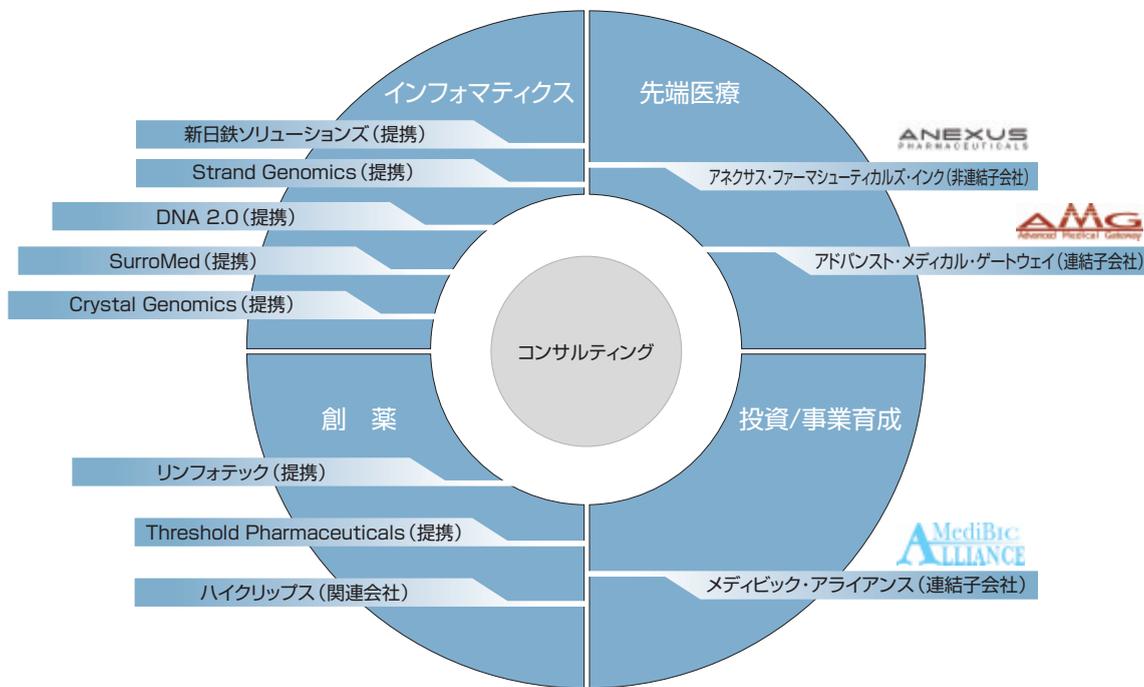
コンサルティングを基軸とした顧客ニーズに基づく展開

当社は、特定の技術に特化しすぎない、マーケット志向の強いバイオ企業、事業開拓型のバイオ企業を目指しております。

これを実現するには、①新薬研究開発技術で先行する欧米からの情報収集を強化すること、②インフォマティクス事業で提供する技術を強化して収益基盤を確立すること、③事業の基盤を拡大するとともに機動的な展開が行えるよ

う組織を再編成すること、以上3点が重要との認識に基づき、グループ戦略、提携戦略を打ち立てました。

具体的には、2004年度には、子会社を3社設立するとともに、インフォマティクス事業及び創薬事業に関連した提携を行いました。今後は、2004年度に整備した骨格を基礎として、主として人員採用面を拡充しつつ、より機動的で洗練された事業展開を図る方針です。



メディビックのグループ戦略、提携戦略 —2004年度—

メディビックのグループ経営

2004年1月

アネクス・ファーマシューティカルズ・インク(米国)を設立。

事業概要: 当社に対する、欧米を中心とした最新研究開発動向及び技術に関する情報の提供。

2004年4月

(株)アドバンスト・メディカル・ゲートウェイを設立。

事業概要: 再生医療分野で事業を営む顧客に対する、細胞加工・製造施設的设计、設備・機器等の選定支援及び維持運営サービスの提供。

2004年4月

(株)メディビック・アライアンス を設立。

事業概要: 当社グループと技術的な相乗効果が期待される顧客に対する、当社グループとの関係を強化するための出資及び事業育成サービスの提供。

2004年10月

ハイクリップス(株)を関連会社化。

事業概要: 治験を行う大学病院等に対する、治験の総合運用支援サービスの提供。

メディビックの提携戦略

インフォマティクス事業

2004年7月 Crystal Genomics, Inc.

事業概要: 創薬および創薬支援サービスの提供

提携内容: 事業及び研究開発における協力体制

2004年8月 新日鉄ソリューションズ(株)

事業概要: システムコンサルティング、ソリューションの提案及び総合ITエンジニアリング、コンピュータシステムの管理、運営等ソフトウェアの開発、販売、リース等

提携内容: 慢性疾患遺伝子解析ソフトウェアの実用化

2004年8月 Strand Genomics Pvt. Ltd.

事業概要: 医薬品開発に関するソフト開発、コンサルテーション

提携内容: 国内医療研究市場向けインフォマティクス技術製品の共同開発及び支援サービス

2004年9月 SurroMed, Inc.

事業内容: バイオマーカー探索技術の開発

提携内容: プロテオーム解析サービス

2004年12月 DNA2.0, Inc.

事業内容: タンパク質合成サービス

提携内容: タンパク質工学技術の共同開発及び遺伝子合成支援サービス

創薬事業

2004年3月 (株)リンフォテック

事業概要: 細胞医薬品開発、医療支援等

提携内容: ゲノム情報を活用した免疫系細胞治療に関する効率的治療のための新技術の共同開発

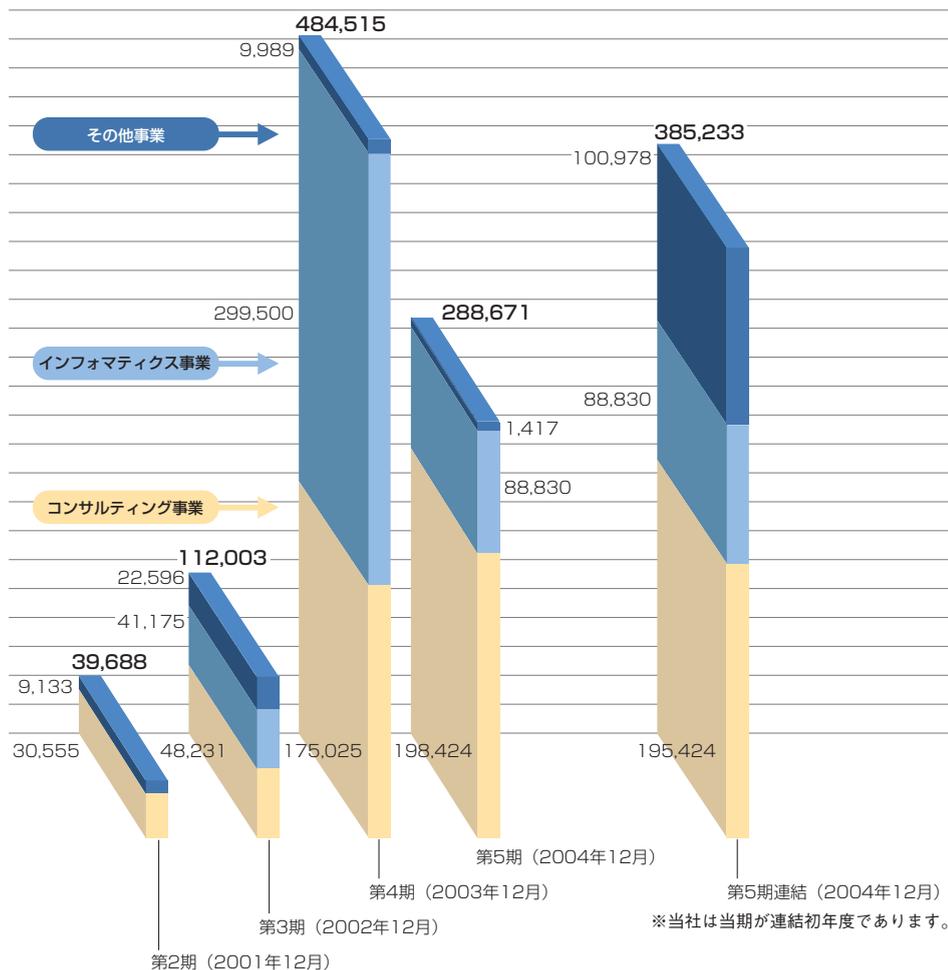
2004年12月 Threshold Pharmaceuticals, Inc.

事業内容: 新薬開発

提携内容: アジアにおける抗がん剤の共同開発

第5期営業活動のご報告

■ 事業別売上高の推移 (単位：千円)



※当社は当期が連結初年度であります。

■ 主要経営指標の推移

(単体)	第2期 '01/12	第3期 '02/12	第4期 '03/12	第5期 '04/12	第5期連結 '04/12
売上高 (千円)	39,688	112,003	288,671	484,515	385,233
経常利益又は損失(△) (千円)	△102,099	△84,430	22,616	△591,677	△611,956
当期純利益又は損失(△) (千円)	△102,365	△87,996	20,716	△580,499	△632,462
株主資本 (千円)	383,249	295,253	2,497,916	2,075,322	2,019,490
総資産 (千円)	414,500	355,363	2,550,161	3,434,299	3,482,469
株主資本比率 (%)	92.5	83.1	98.0	60.4	58.0

● 営業の概況

当連結会計期間において、当社グループは、「単独経営からグループ経営に戦略展開（P7-8参照）」するとともに、「インフォマティクス技術を強化（P3-4参照）」することによって製品・サービスラインを充実させ、さらに、「創業事業へ参入（P5-6参照）」することによって、従来より推し進めてきたビジネス・モデルを完成させました。

当社グループでは、以上の施策をもって、当社グループの骨格はほぼ整備されたと考えており、今後は、必要な人材確保を行いながら既存の事業基盤を拡充させ、顧客ニーズに対してより機動的に対応できる組織づくりを目指す方針であります。

しかし一方、これら施策の実行によっ

て、当連結会計期間における研究開発費負担は増加し、363,819千円となりました。またインフォマティクス事業における、新たな製品・サービスラインに応じた営業活動への切り替えが遅れました。

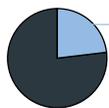
以上の結果、当連結会計期間の売上高は385,233千円、経常損失611,956千円、当期純損失632,462千円となりました。

● 部門別の状況



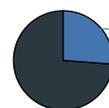
コンサルティング事業
売上高比率 50.7%

コンサルティング事業においては、遺伝子関連研究開発に関する案件、先端医療技術に関する案件、医薬品開発に関する案件等について新規受注を獲得しました。また、国内企業が欧米及びアジア諸国への市場拡大を目指して、研究開発の枠を広げていく一方、外資系企業は、来年度の薬事法改正に期待し、日本市場への製品の紹介及び導出を積極的に検討しています。このようなグローバル開発支援のニーズを受け、当社グループでは積極的な営業活動を行いました。結果として、コンサルティング事業の連結売上高は195,424千円となりました。



インフォマティクス事業
売上高比率 23.1%

インフォマティクス事業においては、前述のとおり新規製品の充実、サービス範囲の拡大を図る一方で、その新たに整えた製品・サービスラインに応じた営業活動への切り替えが遅れてしまいました。当連結会計年度中にも多くの引き合いをいただき、コンサルテーションとしてのサービスは開始しながらも、最新の技術に基づく将来性のあるシステムやITツールの販売促進活動という面では後手に回りました。結果として、インフォマティクス事業の連結売上高は、88,830千円となりました。



その他事業
売上高比率 26.2%

その他事業においては、バイオ関連の専門技術情報を、定期的に顧客にお知らせしていくセミナー開催や出版活動を継続しました。また、株式会社メディビック・アライアンス、株式会社アドバンスト・メディカル・ゲートウェイの事業活動を、下半期において本格的に開始しました。結果として、その他事業の連結売上高は、100,978千円となりました。

● 今後の課題と通期の見通し

来期におきましては、当社グループでは、コンサルティング事業及びインフォマティクス事業においては、コンサルティングを導入として、顧客に対してインフォマティクスを中心とした創業技術支援全般を提供する形に、ビジネスが発展

していくと予想しております。また、その他事業におきましては、技術支援先からの収入、育成企業の株式からの収入等も見込める状況となってまいりました。ただし、一方で導入化合物の開発、新製品・サービスの拡充ではほぼ昨年年みの研究開

発費の支出を予想しております。

これらの施策を通しての来期の連結業績予想につきましては、売上高809百万円、経常損失346百万円、当期純損失348百万円を見込んでおります。

* 業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。様々な要因の変化により、実際の業績は本業績予想と異なる可能性があることをご承知おきください。

財務諸表

貸借対照表（単体）

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当期末 (第5期)	前期末比 (%)	前期末 (第4期)
資産の部			
流動資産	1,923,586	78.1	2,463,763
現金及び預金	1,276,398	53.2	2,399,536
売掛金	103,771	182.9	56,744
前払費用	4,027	124.3	3,241
前渡金	519,600	—	—
未収消費税等	17,730	—	—
その他	2,058	48.5	4,240
固定資産	1,510,712	1,748.6	86,397
有形固定資産	29,729	109.5	27,150
建 物	10,353	80.1	12,919
工具器具及び備品	19,375	136.1	14,231
無形固定資産	21,844	48.8	44,786
電話加入権	144	100.0	144
ソフトウェア	21,700	48.6	44,642
投資その他の資産	1,459,138	10,090.9	14,460
投資有価証券	50,000	5,000.0	1,000
関係会社株式	1,371,437	—	—
長期前払費用	678	91.9	738
差入敷金・保証金	37,022	291.0	12,721
資産合計	3,434,299	134.7	2,550,161

科 目	当期末 (第5期)	前期末比 (%)	前期末 (第4期)
負債の部			
流動負債	58,976	112.9	52,244
買掛金	—	—	1,468
未払金	—	—	272
未払費用	52,445	153.9	34,080
未払法人税等	1,900	100.0	1,900
未払消費税等	—	—	12,269
前受金	1,443	—	—
預り金	3,186	177.8	1,792
新株引受権	—	—	462
固定負債	1,300,000	—	—
社債	1,300,000	—	—
負債合計	1,358,976	2,601.2	52,244
資本の部			
資本金	1,153,946	107.3	1,075,196
資本剰余金	1,687,212	104.9	1,608,001
資本準備金	1,687,212	104.9	1,608,001
利益剰余金	△ 765,781	—	△ 185,281
当期未処理損失	765,781	413.3	185,281
自己株式	△ 55	—	—
資本合計	2,075,322	83.1	2,497,916
負債及び資本合計	3,434,299	134.7	2,550,161

損益計算書（単体）

単位：千円、単位未満切捨

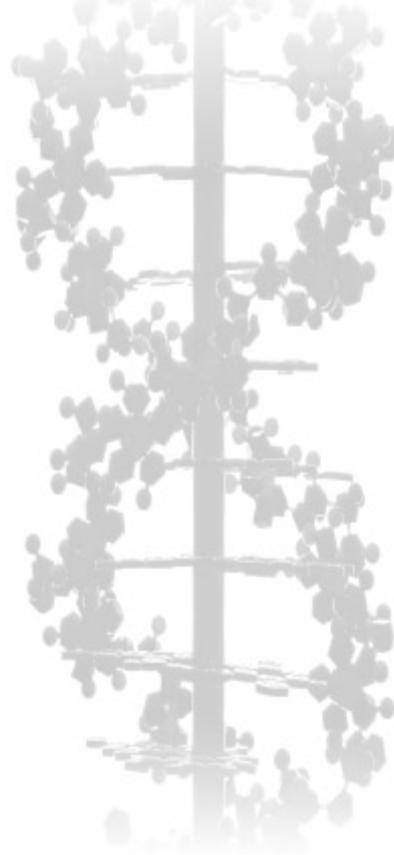
科目	当期 (第5期)	前期比 (%)	前期 (第4期)
売上高	288,671	59.6	484,515
売上原価	149,755	85.0	176,150
売上総利益	138,915	45.0	308,365
販売費及び一般管理費	696,956	274.8	253,577
営業利益または損失(△)	△558,040	—	54,788
営業外収益	12,037	161.1	7,473
受取利息	4,352	145,066.7	3
受取助成金等	7,220	97.0	7,440
雑収入	463	1,596.6	29
営業外費用	45,673	115.2	39,645
新株発行費	10,697	27.2	39,341
社債発行費	9,516	—	—
為替差損	25,459	8,514.7	299
雑損失	—	—	4
経常利益または損失(△)	△591,677	—	22,616
特別利益	30,000	—	—
投資有価証券売却益	30,000	—	—
特別損失	16,922	—	—
固定資産除却損	10,910	—	—
本社移転費用	6,011	—	—
税引前当期純利益または損失(△)	△578,599	—	22,616
法人税、住民税及び事業税	1,900	100.0	1,900
当期純利益または損失(△)	△580,499	—	20,716
前期繰越損失	185,281	89.9	205,998
当期未処理損失	765,781	413.3	185,281

当期における主要連結経営指標

単位：千円、単位未満切捨

●連結売上高	385,233
●連結営業損失	557,306
●連結経常損失	611,956
●連結当期純損失	632,462
●連結総資産	3,482,469
●連結株主資本	2,019,490

※連結対象子会社は株式会社メディック・アライアンス及び株式会社アドバンスト・メディカル・ゲートウェイの2社、持分適用会社はハイクリップス株式会社1社であります。



会社の概況 (2004年12月31日現在)

設立 : 2000年2月17日
資本金 : 11億5,394万円
所在地 : 〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル8F
TEL:03-5510-2407
※2004年11月7日をもちまして
上記に移転いたしました。

事業所 : 〒650-0047
兵庫県神戸市中央区港島南町
5-5-2 KIBC 6F

従業員 : 24名

主要取引銀行 : 株式会社三井住友銀行 日比谷支店
株式会社東京三菱銀行 新橋支店
三菱信託銀行株式会社 本店
株式会社UFJ銀行 新橋支店

グループ会社 : アネクス・ファーマシューティカルズ・インク
(株)メディック・アライアンス
(株)アドバンスト・メディカル・ゲートウェイ
ハイクリップス(株)

取締役

代表取締役社長	橋本 康弘
取締役副社長	大前 トモ子
専務取締役	小林 光
常務取締役	竹本 佳弘
取締役	佐藤 喬俊
取締役	富岡 和治

監査役

常勤監査役	木下 郁大
監査役	好田 肇
監査役	中村 薫竹

執行役員

執行役員	太田 雅敏
------	-------



<http://www.medibic.com/>

当社はIR活動の一環として、ホームページによる情報発信の充実に努めています。

詳細な事業概要、ビジネスモデルの解説、財務データの適時掲載の他、会社説明会などのIRイベント開催についてもお知らせしています。ぜひアクセスいただき、ご活用をお願いいたします。

●会社説明会ストリーミング

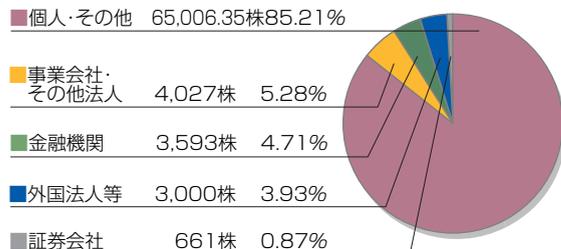
当社HP上にて、会社説明会の様子を動画配信でお伝えしています。経営陣の肉声による詳細な戦略解説や質疑応答を通して、よりわかりやすい形で当社をご理解いただけます。

株式の状況 (2004年12月31日現在)

株式状況

発行する株式の総数	154,944株
発行済株式の総数	76,287.35株
株主数	10,571名

所有者別株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
橋本康弘	20,176	26.45
株式会社アルテミス	2,318	3.04
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社信託口	1,568	2.06
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント	1,363	1.79
資産管理サービス信託銀行株式会社 証券投資信託口	834	1.09
ザバンクオブニューヨークノントリー ティージャスデックアカウント	770	1.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 信託口	713	0.93
ゴールドマン・サックス・ インターナショナル	491	0.64
大阪証券金融株式会社業務口	342	0.45
小林光	322	0.42

株主メモ

- 決算期 12月31日
- 定時株主総会 3月中
- 株主確定基準日 12月31日
- 株式の売買単位 1株
- 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(お問合せ先) 〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
- 同取次所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
- お知らせ 住所変更、配当金振込指定・変更に必要な
各用紙、及び株式の相続手続依頼書
のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル
0120-86-4490及びホームページ
(<http://www.mitsubishi-trust.co.jp/kojin/daikou/daik01.html>)
にて24時間承っておりますので、ご利用下さい。
(証券保管振替制度をご利用の株主様は、
お取引の証券会社にお申し出下さい。)
- 公告掲載紙 日本経済新聞
- 証券コード 2369

MediBic

■ 当冊子についてのお問合せ先 ■

株式会社メディビック 管理本部

本社／〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2大同生命霞が関ビル8F TEL. 03-5510-2407

※2004年11月7日をもちまして上記に移転いたしました。

R100
古紙配合率100%再生紙

 PRINTED WITH
SOYINK™